

遠隔支援コンサルテーション マニュアル



遠隔支援コンサルテーションマニュアルについて

日本では、学習面や生活面で特別な支援を必要とする子供に対して、インクルーシブ教育システム推進の理念の下、特別支援教育の充実を進めてきました。

しかし、日本人学校等においては、日本国内の学校と比較して、特別支援教育を充実させるための教育資源が少ない現状があります。

そこで、2019年より、日本の特別支援学校が、日本人学校に対して、ICT機器を使用して行うコンサルテーション「遠隔支援コンサルテーション」を試行しています。取組の結果が、この遠隔支援コンサルテーションマニュアルに反映されています。

遠隔支援コンサルテーションは、オンライン（テレビ会議システム等）を活用し、海外の日本人学校等の教員の特別な支援を必要とする子供への指導・支援の悩みを、日本の特別支援学校等の教員と一緒に考える取組みです。

この遠隔支援コンサルテーションマニュアルを活用して、特別な支援を必要とする子供の教育の充実に向けて、一緒に取り組んでいきましょう。

I. 遠隔支援コンサルテーションとは？

国内の特別支援学校等が、日本人学校等に対して、ICT 機器を使用して行うコンサルテーションのことを「遠隔支援コンサルテーション」とよんでおります。

- ①日本人学校等が、特別な支援を必要とする子供への指導・支援の充実を図ること
- ②日本人学校等が、遠隔支援コンサルテーションを通して、校内支援体制等の充実を図ること

以上の2つが、遠隔支援コンサルテーションの目的です。



- 特別な支援を必要とする子供に、どんな指導ができるだろう？
- 頑張って指導してきたけどうまくいかないなあ。どうしてだろう？
- 新しく先生になったばかりで、特別支援教育のことがわからない。
- 子供は、どんなことに困っているんだろう？

このような悩みに対して、国内の特別支援学校の先生方とアイデアを出し合いながら一緒に解決策を見出していきます。

II. 遠隔支援コンサルテーションの概要

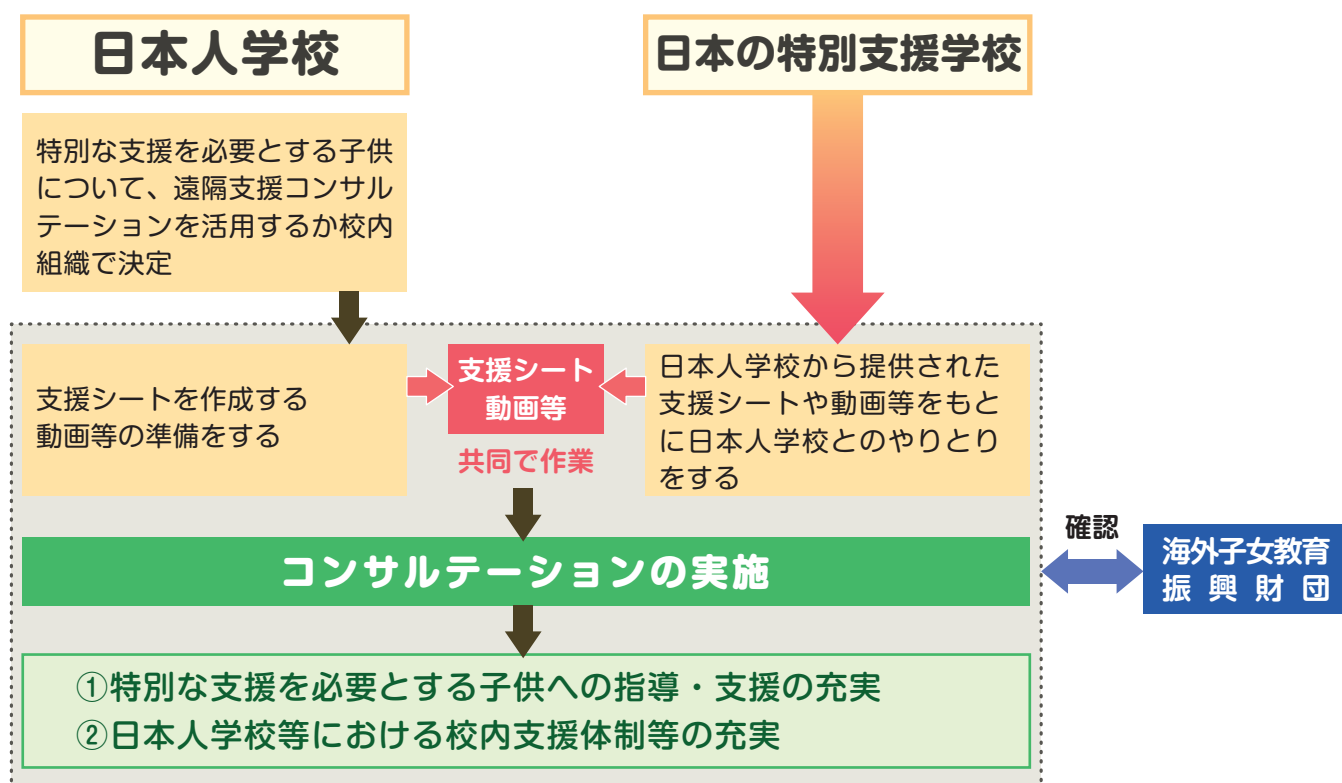


図1 遠隔支援コンサルテーションの概要

ここでは、△△日本人学校の事例に沿って、遠隔支援コンサルテーションの概要を紹介します。

1 支援シートの記入

△△日本人学校の教員は、主に集中力の持続や他者との関わり方に支援が必要だと考えられる〇〇さんの指導方法に指導上の悩みを抱えていました。そこで〇〇さんを遠隔支援コンサルテーションの対象とすることとしました。

まず、支援シートの概要欄に、〇〇さんの生育歴や学校での様子、得意なことや学習に対する意欲や態度等の実態について記入しました。

相談内容には、これまでの授業中の〇〇さんの様子やどのように支援等に取り組んできたかについて具体的に記入しました。例えば、「みんなよりも遅れて行動することが多い」様子に対し、「集団活動の際には、約束が視覚的にわかるツールを用意し、必要に応じて提示した」のように記入しました。この支援シートは、□□特別支援学校の教員に共有されました。

2 遠隔支援コンサルテーションの実施

コンサルテーション当日には、まず、△△日本人学校の教員から支援シートの内容を中心に、〇〇さんの様子や指導上の悩みについての説明がありました。

次に、□□特別支援学校の教員が質問し、△△日本人学校の教員が回答する形式で〇〇さんについての理解を深め、話し合いの中で指導・支援の提案がなされました。例えば、□□特別支援学校の教員からは、〇〇さんと教員間の約束の決め方について、「～してはいけません（「走ってはいけません」等）」といった否定形でなく、「～しよう（「ゆっくり歩こう」等）」といった肯定的な約束も行うことで、場に応じた行動を示すことができるのではないかといった提案がありました。

また、〇〇さんの行動の背景にある気持ちや、授業作りの工夫についてのアイデアが共有され、今後の指導に向けて、△△日本人学校と□□特別支援学校の教員が共に考える時間となりました。

3 遠隔支援コンサルテーションの振り返り

遠隔支援コンサルテーション実施後、授業以外でも新たな視点で〇〇さんに関わることとなりました。その後、□□特別支援学校の教員から、具体的な支援方法についてさらなる情報提供がなされました。

〇〇さんに関する遠隔支援コンサルテーションの取組は継続して行われており、その度に〇〇さんの肯定的な変化について報告されています。

4 遠隔支援コンサルテーションでの留意事項

遠隔地でのオンライン支援であるため、相手の教員の表情が見えにくいことや、その場に居合わせないことで生じる不安、現地の文化に合わせた指導の必要性等、遠隔支援コンサルテーション特有の難しさがあります。

このため、遠隔支援コンサルテーションによって課題等に対する対応策が示されるのを期待するのではなく、遠隔支援コンサルテーションを契機に、日本人学校等が特別な支援を必要とする子供への指導・支援の充実を図り、校内支援体制等の充実を図ることが重要です。加えて、日本人学校の教員が3年で入れ替わるという特有の難しさがある中で、特別な支援を必要とする子供の学びを保障するための引継ぎシステムの確立も必要です。

Ⅲ. 遠隔支援コンサルテーションの準備の詳細

遠隔支援コンサルテーションは、国内の特別支援学校の協力体制が得られた場合に下記対応を取るようになります。まずは海外子女教育振興財団までご一報ください。

(1) 海外子女教育振興財団への連絡

- ① 財団 HP 内「遠隔支援マニュアル」にアクセスします。
(URL <https://ag-5.jp/report/theme8>)
- ② 「遠隔支援申請書」をダウンロードし、必要事項を入力します。
- ③ 海外子女教育振興財団へ「遠隔支援申請書」を E-mail で送付します。
(メールアドレス: ag5@joes.or.jp)

※海外子女教育振興財団から、日本人学校及び特別支援学校の双方に「決定通知」が E-mail で送付されます。

(2) 遠隔支援コンサルテーションに向けた準備

- ① 日本人学校長から、特別支援学校にご挨拶の E-mail を送付します。
日本人学校と特別支援学校の担当者間で自己紹介を含めたやりとりを開始します。
- ② 担当者間で遠隔支援コンサルテーションの日程を決定します。
日程が決定したら、日本人学校から海外子女教育振興財団へ連絡します。
- ③ 日本人学校は「支援シート」を作成します（詳細は次ページ）。
記入した支援シートは直接特別支援学校に送付します。
- ④ 日本人学校は、支援シートを元に遠隔支援コンサルテーションに向けた準備をします。



(3) 遠隔支援コンサルテーション当日

- ・ 開始予定時間になったら遠隔支援コンサルテーションを開始します。
(目安は1時間程度)
- ・ 支援シートに記入した内容を元に話し合いを進めます。

● 遠隔支援コンサルテーション実施に関するポイント

支援シート作成の際には、特別な支援を必要とする子供の情報をできるだけ具体的に整理しましょう。

その際、特別な支援を必要とする子供の得意な部分、良い部分についても整理しましょう。このことがヒントになるかも知れません。



(4) 遠隔支援コンサルテーションに活用した支援シート

支援シートは、遠隔支援コンサルテーションをサポートする目的で作成されました。
下記シート内の1～5を日本人学校が、6～8を特別支援学校が記入します。

1. 対象児童生徒(学年)の記入

- ・イニシャル等を用いて、匿名で名前を記入します。
- ・学年も記入します。

2. 児童生徒の概要・諸検査等の情報の記入

対象児童生徒の生育歴/学校での様子/家庭での様子/得意・不得意/興味のあること/友人や教員との関わり/学習に対する意欲や態度等、児童生徒についてなるべく具体的に記入します。

遠隔支援コンサルテーション 支援シート								
対象児童生徒(学年)			1					
児童生徒の概要 (生育歴/学校での様子/家庭での様子/得意・不得意等)			2					
諸検査等の情報								
記入者	特別支援学校	日本人学校	特別支援学校					
相談回数	日時	参加者	①相談内容	②①に対して 取り組んだこと	③②実施以降の児童生徒の様子 (変化がない、改善されない場合も記入)	④コンサルテーション概要 (検討事項・アドバイスなど)	⑤次回の実施事項	⑥備考
1			3	4	5	6	7	8
2			[前回からの継続] 2回目以降は、前回のコンサルテーション後の指導や、児童生徒の様子についても記入します。			特別支援学校が記入します。		
			[新規]					
3			[前回からの継続] [新規]					

3. ①相談内容の記入

対象児童生徒の指導に関する相談内容を記入します。
(例)見通しを持って行動することが苦手で、みんなよりも遅れて行動することが多い。集団の中でどのような支援をすることができるか。

4. ②①に対して取り組んだことの記入

相談内容に記入した内容について、これまで取り組んできたことを記入します。
(例)離席があった際、その都度、注意をした。

5. ②実施以降の児童生徒の様子の記入

取り組み後の児童生徒の変化について記入します。
(例)約束を確認するときにはわかっている様子だが、あまり行動に変化がない。

6. 遠隔支援コンサルテーション概要の記入

遠隔支援コンサルテーションの中で話合った内容や、検討事項、アドバイスの概要を記入します。

7. 次回の実施事項の記入

今回の遠隔支援コンサルテーションを踏まえて、次回検討したい内容を記入します。

8. 備考

特記すべき事項があれば記入します。

※本シートは随時更新していきます。ご承知おきください。

Ⅳ. 遠隔支援コンサルテーション実施及び留意事項

(1) 日本人学校等の環境の説明

- ・日本人学校等の仕組みや環境は、日本と大きく異なっています。例えば、クラスの在籍人数や指導の体制、日本人学校等が設置されている国の実情やその国で暮らしている子供達の苦労等の違いについて共有しておきましょう。
- ・特に、日本人学校内の特別支援学級、通級による指導の有無や授業時間内の個別の配慮、授業時間外の個別指導ができるかなどの情報は、共有しておきましょう。
- ・まずは、日本人学校等の実情を知ってもらい、遠隔支援コンサルテーションを行いましょう。

(2) 対象となる子供の様子の説明

- ・支援シートや映像データ等をもとに対象となる子供の様子の説明を行います。
- ・支援シートや映像データ等だけでは、子供や先生の表情や全体的な雰囲気など伝わりにくい情報がありますので、遠隔支援コンサルテーションでやりとりをしながら認識のズレを埋めていくことが重要です。
- ・どんな解決策があるのかは互いにアイデアを出し合い、一緒に解決策を探していくというスタンスで取り組みましょう。

コンサルテーションの考え方

コンサルテーションの考え方を下の図に沿って、整理します。

コンサルテーションは、「②連携・相談」を行うことで、「①直接支援・指導」の変化を促し、結果として、子供の行動変容を期待するものです。

そして、「①直接支援・指導」では、A. 全ての子供を対象とした支援とB. 授業時間内の個別の配慮が検討されます。必要に応じて、C. 授業時間外の個別指導について検討しましょう。

日本人学校等の教員と特別支援学校の担当者は、対等な関係性の中で、互いにアイデアを出し合って、「①直接支援・指導」の変化が、お子さんの行動を変容させ、かつ日本人学校等において実現可能なものとなるよう検討していきます。

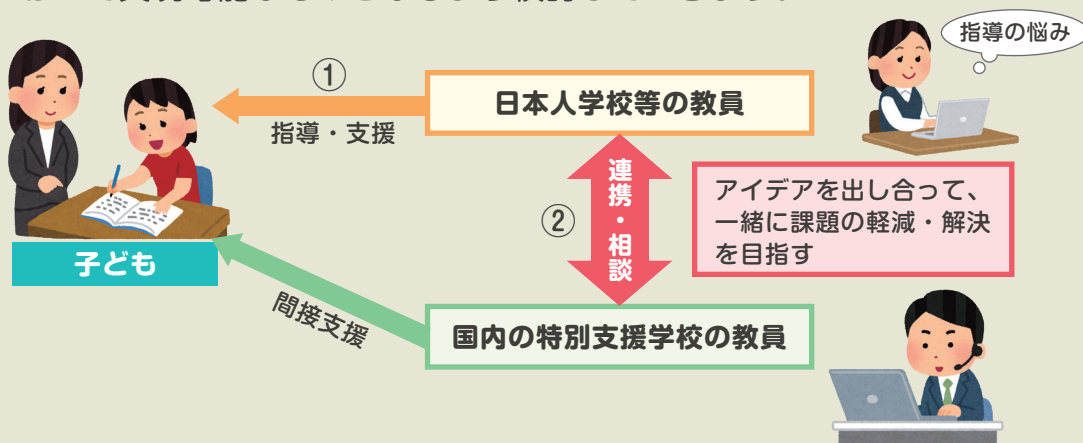


図 コンサルテーションの考え方の図式
(学校コンサルテーションを進めるためのガイドブック コンサルタント必携より改変)

V. 遠隔支援コンサルテーションの継続と終了

(1) 遠隔支援コンサルテーションの継続

- ・ 1回のコンサルテーションで子供の状況が変化することもあるれば変化しないこともあります。指導の結果の報告等を受け、情報交換を行いましょう。必要に応じてコンサルテーションを継続していく必要があります。
- ・ また、日本人学校等では、3年程度で教員が入れ替わっていく実情があります。学校として、支援の仕組みが引き継がれるように校内体制を整えるようにしていくことも重要です。
- ・ 随時、実践シートに実践内容等の必要事項を記入し、特別支援学校と共有の上、海外子女教育振興財団にも進捗状況を報告しましょう。

(2) 遠隔支援コンサルテーションの終了

- ・ 課題が解決する等した場合には、コンサルテーションを終了します。最終回にその成果と課題を表記し、海外子女教育振興財団に報告します。

解決策を探っていくポイント

日本人学校の通常の学級での支援について、次の3つの場面を想定して話し合いましょう。

A. 全ての子供を対象とした支援があります。

- ・ 全ての子供を対象とした支援について検討しましょう。
- ・ 心のバリアフリーノート指導上の留意点の小学生用「どの子供も安心して活躍できる学級経営の視点（例）」や中高生用「障害のあるなしに関わらず全ての生徒を大事にした学級・ホームルーム経営の視点（例）」を参考にしてください。
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1394142.htm)

B. 授業時間内の個別の配慮があります。

- ・ 授業時間内の個別の配慮について検討しましょう。
- ・ 各障害の特性及び指導方法等については、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」を参考にしてください。
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm)
- ・ また、国立特別支援教育総合研究所「インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）」も参考にしてください。(http://inclusive.nise.go.jp/)

C. 個別の集中的な支援があります。

- ・ 授業時間外の個別指導について検討しましょう。
- ・ 各障害の特性及び指導方法等については、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」を参考にしてください。

* コンサルテーションでは、どの場面を想定した支援をするのかを検討しましょう。例えば、授業中の視覚的な支援等は、全ての子供に必要な支援かも知れません。また、その子供にだけ必要な支援があるかも知れません。

Ⅵ. 遠隔支援コンサルテーションの充実のためのポイント

- ・遠隔支援コンサルテーションでは、日本の特別支援学校等の先生が、個別対応の手法を提案することがありますが、日本人学校等において、個別の対応をできる時間を捻出できるのか等、実現可能かについて検討する必要があります。
また、前のページで示した3つの場面について、提案された手法が個別の指導の際に実現できるのか、一斉指導の中で個別の支援が実現できるのか、クラス全体でも実現できるのかを整理することも大切です。
- ・一斉指導の中で個別の支援を取り入れる際、クラスの他の子供が、平等ではないと感じることがあるかも知れません。しかし、本来、子供の実態は様々なのですから、その子供にあった支援がされることは当然のことなのです。下の図の合理的配慮を理解するためのポイントのように様々な支援があって、学びあえるような学級経営を心がけて行きましょう。
- ・ケースによっては、遠隔支援コンサルテーションを継続していくことが必要になるかも知れません。しかし、日本人学校等が自校の校内委員会等で課題解決できる力を醸成していくことも大事なことです。

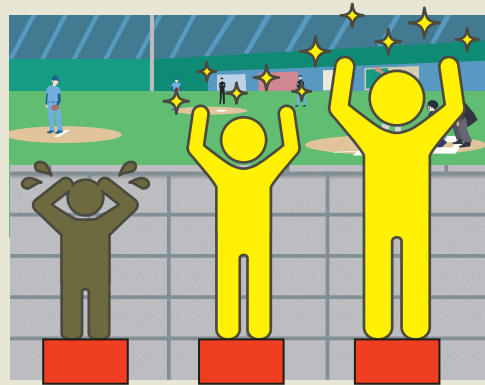
合理的配慮を理解するためのポイント

※障害のある人から、社会のなかにあるバリア（障壁）を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応することを合理的配慮と呼びます。

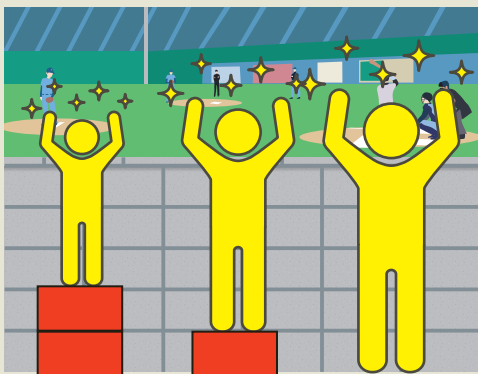
下の4つの図にバリアへの対応が示されています。



配慮 が何もない状態…



平等 ではあるけれど左の子はまだ見えない…



公正 さが担保されて全員が試合を見られる！



環境 を変えれば、不利は生じない！

VII. 実際の実践事例

1. A日本人学校とB特別支援学校における実践

(1) 遠隔支援コンサルテーションの実施の目的

A日本人学校は、B特別支援学校とともに遠隔支援コンサルテーションを実施しました。

A日本人学校が遠隔支援コンサルテーションへの参加を決めた理由として、全ての子供が豊かに過ごすことができる校内支援体制の構築を目指していることが挙げられました。

実際に遠隔支援コンサルテーションを機に生徒指導部を中心に校内支援体制を構築し、ケース会議を実施することで教員間の共通理解を図っていきました。

(2) 遠隔支援コンサルテーションの実際

遠隔支援コンサルテーションにおける具体的な取り組みとして、A日本人学校では、支援シートに記入する際に教員間で検討を重ね、課題や指導内容を整理したことが挙げられました。

そして、B特別支援学校との遠隔支援コンサルテーションを通して、その内容を具体的に指導・支援に生かしていました。例えば、子供の実態に応じてわかりやすいイラストで予定を説明することや、「頑張りカード」にシールを貼るといった方法で、他の教員や保護者と共に成長を応援するような機会が増えたと感じていました。

また、A日本人学校では、遠隔支援コンサルテーションの様子を全教職員が視聴可能とし、校内研修の一環としたことにより、教職員全体の専門性向上につながりました。B特別支援学校は、A日本人学校の全教職員が視聴することを踏まえ、視覚的にわかりやすく伝えるための資料準備を丁寧に行っていました。

A日本人学校のからの支援シートには、子供の背景や課題が詳しく書かれていたため、子供を理解するのにとても役立ったとの感想がB特別支援学校からありました。加えて、オンライン授業の様子を映像で視聴する機会があったことで子供のイメージを持ちやすくなったとの意見がありました。遠隔支援コンサルテーションを通して、担任の先生や特別支援教育コーディネーター、校長先生等、複数の教員から子供の様子を聞き取り、障害特性や、障害の理解の仕方や考え方、具体的な支援方法について助言することができたと報告しています。

(3) 遠隔支援コンサルテーションから得られたこと

B特別支援学校の教員からは、子供の背景が日本と異なるケースを共に考える機会となり勉強になったことや、A日本人学校の校長先生を筆頭に教員らのチーム力が徐々に高まっている様子を目の当たりにできて良かったという感想が挙げられました。

一方で、事前に子供の様子が詳細にわかる動画の共有や、生活環境や支援環境の違い等についての情報があれば、さらに充実した遠隔支援コンサルテーションを行えると感じていました。

2. C日本人学校とD特別支援学校における実践

(1) 遠隔支援コンサルテーションの実施の目的

C日本人学校は、D特別支援学校とともに遠隔支援コンサルテーションを実施しました。

C日本人学校が遠隔支援コンサルテーションへの参加を決めた理由として、学習や生活面で困っている子供や様々な背景のある子供が在籍しており、彼らへの対応に教員が悩んでいたということが挙げられました。

(2) 遠隔支援コンサルテーションの実際

C日本人学校の教員は、日本人学校の教員の入れ替わりや担任の交代を考慮して、複数年にわたり継続的な支援ができるという点を重視し、特に特別な支援が必要な子供を遠隔支援コンサルテーションの対象としました。

C日本人学校では、担任以外の教員も遠隔支援コンサルテーションに参加し、協力して支援の方向性を検討しました。

同時に、授業録画ビデオを提供して、D特別支援学校に子供の実態をより詳しく伝えられるように工夫しました。

D特別支援学校との遠隔支援コンサルテーションでは、授業の理解が難しく学習へのモチベーションが上がらない生徒への指導について「生徒が達成感を得られる課題を設定する」という提案を受けました。

そこで、授業中に個人のレベルに合ったプリントを導入したところ、生徒の成功体験が増加し、少しずつ学習に対して前向きになったそうです。また、見通しを持った行動が苦手で、勝敗へのこだわりが強く負けると大声を出したり物に当たったりする等の様子がみられた子供には、実態に合わせて活動内容を調整する等の支援が検討されました。これらを受けて授業の再構成を図ったところ、離席が減少し、感情抑制の課題が改善されました。

さらに、支援シートを引継ぎに活用したことで、複数年にわたる継続的な支援が可能になったことや、子供の様子を伝えるために録画した動画が、自身で支援を見直すきっかけになりました。

(3) 遠隔支援コンサルテーションから得られたこと

D特別支援学校からは、事前に校内で共有できる資料を作成したことが工夫点として挙げられました。遠隔支援コンサルテーションを行っていく中で、継続して特定のケースを検討していくことで子供の変容が見られたことや、相手校の教員らが子供のポジティブな行動や変化を捉えることが増えていきました。D特別支援学校の教員は、C日本人学校の教員間で子供のポジティブな面を共有できる雰囲気が作られたことを遠隔支援コンサルテーションの重要な成果だと捉えました。

VIII. 遠隔支援コンサルテーション Q&A

Q1 遠隔支援コンサルテーションを受ける際に必要な機器等は何ですか？

基本的には、学校の外につながるネット環境があり、インターネットにつながる PC やタブレット（情報端末機器）があれば可能ですが、大人数で視聴する場合は、大画面モニターやスピーカーがあるとストレス無く参加が出来ると思います。また、校内 LAN や Wi-Fi 環境が整っていると、どこでも視聴しやすくなります。

Q2 個人情報の取り扱いはどうなっていますか？

個人情報は、各学校の個人情報の取り扱いに関する規定に則って、慎重に扱います。また、「日本人学校における特別支援教育に関する遠隔指導の実施に向けた実践的研究」の中では、海外子女教育振興財団と国立特別支援教育総合研究所が策定した「日本人学校支援事業における個人情報の取り扱いガイドライン」があり、これを参考にすることが考えられます。コンサルテーション等で個人情報を扱うときは、くれぐれも個人が特定されないように、名前をイニシャルや任意記号等に変えて示す必要があります。

Q3 遠隔支援コンサルテーションを受ける際に教職員は誰でも参加可能ですか？

遠隔支援コンサルテーションを利用する学校の教職員であれば、どなたでも参加可能です。例えば、遠隔支援コンサルテーションを校内研修の場として活用する等、学校全体として特別支援教育の充実に取り組むきっかけとしてもよいでしょう。

Q4 保護者からの相談はできますか？

原則として、直接保護者からの教育相談や進路相談を受けることはできません。しかし、事前に学校の教員が保護者からの相談を受け、特別支援教育に関する相談内容であれば、教員が保護者に代わって遠隔支援コンサルテーションで質問することは可能です。その場合、質問内容を事前に管理職に許可を得てから遠隔支援コンサルテーションを行うようにしてください。

Q5 特別支援教育についてもっと学びたいときにはどうしたらよいですか？

特別支援教育についてもっと学びたい場合は、遠隔支援コンサルテーションを実施している特別支援学校に相談してみてください。また、国立特別支援教育総合研究所のホームページもご活用ください。詳細を次のページに掲載しましたので、どうぞご参考にしてください。

ウェブサイト名	アクセス方法	内 容
「発達障害教育推進センター」 のウェブサイト 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター	 URL: http://cpedd.nise.go.jp/	【発達障害に関する情報等の発信】 国立特別支援教育総合研究所の発達障害教育推進センターでは、発達障害に関する情報発信や、研修講義のオンデマンド配信、教育実践セミナーの実施等を行っています。ウェブサイト上には、発達障害の基本的な情報や、研究所の研究成果等が掲載されています。
「インクル DB」 (インクルーシブ教育システム構築支援データベース) インクルーシブ教育システム構築支援データベース インクルDB 「合理的配慮」実践事例データベース	 URL: http://inclusive.nise.go.jp/	【合理的配慮の実践事例データベース】 合理的配慮の実践事例が具体的に掲載されています（令和3年12月27日現在：590事例）。  キーワードで検索できるので、簡単に類似事例の詳細を確認することができます。 研修教材としてもご利用いただけます。
「NISE 学びラボ」 	 URL: https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/online	【特別支援教育に関するオンデマンド講義】 約 170 種類以上の講義動画コンテンツから、受けた講義をいつでもどこでも受講できます。 ▶ 講義時間は 15 ～ 30 分程度 ▶ パソコンやスマートフォンから受講可能 ▶ 研修にも活用可能
「支援教材ポータル」  支援教材ポータル 国立特別支援教育教材ポータルサイト	 URL: http://kyozai.nise.go.jp/	【教材や支援機器の活用方法の紹介】 障害の特性に応じた教材の紹介や支援機器等の活用に関する情報、さらにそれらを用いた実践事例を掲載しています。特性や教科等のキーワードから簡単に検索することができます。 
その他にも様々な情報を発信しています。 是非、国立特別支援教育総合研究所のウェブサイトをご活用ください。(https://www.nise.go.jp/nc/)		

IX. 関係機関の紹介

1. 公益財団法人 海外子女教育振興財団（JOES）
<https://www.joes.or.jp/>
2. 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所（NISE）
<https://www.nise.go.jp/nc/>